



2月号

2024・2 No.501

(発行者)

大本三河本苑

〒443-0031

蒲郡市竹島町28-5

TEL.0533-69-7518

FAX.0533-69-1455

# 「分所・支部長研修会」のご案内

【日 時】令和6年2月18日(日) 本苑月次祭後 【場 所】大本三河本苑

【参加者】分所長・支部長・会合所長の1名、総代と次長より1名の 各機関で2名

本年度教団方針の骨子、また三河本苑活動方針とそれを達成するための施策を共有し、分所・支部・会合所として今なすべきことを確認し合います。本苑と分所・支部・会合所の全機関の思ひを一つにして、令和の五六七(みろく)2年目のご神業に邁進していきたいと思ひます。分所長・支部長・会合所長と総代・次長の出席を強くお願いいたします。

# 第28回東海サミット開催します

【日 時】2024年 3月2日(土)~3日(日)

【場 所】静岡分苑 (会場:つま恋リゾート彩の郷)

今年の「第28回東海サミット」は、静岡分苑が主催します。会場はつま恋リゾート彩の郷にて、現職の方、OBの方を交え「東海教区連携協力体制～実施可能な連携について」を中心に、分科会では各機関の問題点等を共有し、対策を話し合います。又、懇親会では親睦を深めて参ります。



# 少年冬季学級



おいしかった  
クリスマスチキン  
&  
カレーライス

親子で作った  
クリスマスリース

◆子供7名、保護者7名、青年部2名、役員9名、直心会3名の方が参加されました。

## 大本祭式

### 3・4級認定講習会のご案内

祭務部長 調子真一  
3月30日(土)  
31日(日)9時より  
本苑にて実施します  
(一日のみ参加でも  
かまいません)

【服装】動きやすい服  
【持ち物】帯・ひも  
・ベルトなど物が  
させるもの・足袋・  
筆記用具  
【昼食】500円  
○三・四級の資格を  
を目指す方  
○月次祭を自分で  
したい方  
○祭式を再確認し  
たい方  
○男女・子供関係な  
く受講できます  
【申込み】3月17日  
本苑月次祭までに三  
河本苑事務局へ申し  
込み下さい。  
☎0563-69-17  
518

【聖師様の愛善の道】  
思わざること次々におこれども  
善意にとれば力とぞなる  
苦しきも又たのもしく思わゆる  
神の大道(おおい)をあゆむ身にして

## 2月の行事

●3日(土)  
節分大祭 (梅松苑)

●18日(日)  
本苑2月月次祭

分所支部長研修会  
(直会終了後)

●24日(土)~25日(日)  
教本3級認定講習会

## 3月の行事

●2日(土)~3日(日)  
東海サミット(静岡分苑)

●16日(土)  
直心会・みどり会講習会  
・包丁砥ぎ(午前中)

●17日(日)  
本苑3月月次祭 女性祭員  
・ひな祭り茶会・全体会議

●24日(日)  
ものづくり体験 芸術部

●30日(土)~31日(日)  
祭式3・4級認定講習会

## 二月添釜

# 初茶会

今年も佳き年になりますように一服を差し上げます  
芸術部/直心会第三ブロック

三河本苑公式LINE



↑ コチラから  
本苑だより更新中

「マイ祝詞」「マイ箸」「マイボトル」「マイタオル」持参でお願いします

私の  
思い

## 私の御神徳(おかげ)話

井田支部

河内スエ子

私は徳島県の農家に生まれて、中学を卒業し岡崎市の会社に就職しました。その時、寮の友達が大本信徒の家で、週末になると月次祭に参拝していました。岡崎市の信者さんの月次祭には、支部関係なく青年部が祭官をしていました。私も青年部に入り、友人と一緒にご奉仕しました。その時に、主人と知り合いました。

昭和38年に結婚して、入信奉斎をいたしました。その後、三人の子供を授かりました。昔は三代様に命名して頂き、和紙に書いて送っていただきました。今では考えられない事で家宝であります。私と主人は信仰一世です。現在は支部の月次祭を継続させて頂けることが、

二つ目のお神徳だといつも思っています。

それと木島さんが支部に来てくれた事も若返りになっています。祭官は交代で月次祭をしています。最近、二男が脳梗塞になり、「み手代お取り次ぎ」で大きなお蔭を頂きました。3ヶ月毎日続けました。今は一人で散歩しているのです。

私の目標は、今年、主人の十年祭の祭官をさせて頂いていただくことです。毎日、朝夕拝に「こころの鏡」の日めくりを見えています。「反省せぬ人には進歩はない(十八日)」出口日出磨尊師さまのお言葉です。あとは実行するのみです。

この道一筋

「大祭月次祭添釜四十五周年を迎えて」

茶道部 横井一男

万根同根と教示された数多くの宗教は有ります。すべての根は同じで有るとの教えです。しかし、大本の様に、父と母の教えが揃った教えはないと思います。父のみの教えと母のみの教えが有りますが、両親揃っているのが大本とご教示いただいています。父の教えは神業奉仕であり、母の教えはその人に合った芸術を身につける事であると教えられています。

茶道の道は人の生活の基本であります。茶道に基づいた生活をするのが大切であると、三代さまは芸術を実践されて来ました。其れを実践しようと、二十歳の頃に茶道を始めました。そして本苑の添釜の担当をさせて頂いた

だき、今年で四十五年に成りました。途中コロナ禍の為、三年程お休みがありました。本苑五十周年を迎え、又、元の様に添釜を開くことが出来ることとなり大変に喜んでいきます。日本には四季があります。その四季を現わした席作りをしてお客様をどうおもてなしをするか、「和敬清寂」の精神をどうした形でお客様にお伝えするか、毎月楽しみながらテーマを考えています。そのテーマに合った席をどの様に構成するかを考えることは大変ですが楽しみでも有ります。

振り返って見ますと、フラワーパークが有った頃は、大祭に成ると植物園の中庭で野点席を開きました。教主様、ご名代様(現在はご

名代制度はない)に一服を差し上げ、時には抹茶茶碗への絵付け教室を開きました。その作品は今も残っています。

以前の本苑の茶室は客畳六畳でしたので、小間の席ゆえ小間点前の勉強ができました。本苑設立五十周年を迎えて新本苑となった茶室は八畳の広間の席となり、現在は広間の席の稽古が出来、大変喜んでいきます。

私は淡交会三河支部の代表として豊田の守調寺で、大本以外の場所で初めて席主をさせて頂きました。その時、鵬雲斎宗匠から私の為に一行をご染筆いただいたのが「千里一望秋」です。それを床に掛けて茶会を開きました。千里先に素晴らしい処が有るがまず一歩を出さない、途中で途絶えては届かない、続けておれば素晴らしい処でこうして茶会を開ける迄成れたとお言葉と解し、今後もこの気持ちを腹の底に置いて、継続は力

で実践していこうと思う毎日です。毎年節分大祓の時、大本の添釜が今迄の様に続いて益々の栄えを祈願しています。毎月月次祭祭典後、清々しく一服を楽しんでいただけます様、ご神業と共に芸術の楽しみとしてお茶の道に精進したく思う毎日です。皆さまお茶は良いですよ。一人でも多くの方が、ご神業と同じく茶道を習って下さる方が増えることを願っています。